

殿下校思い出ツナグプロジェクト

～閉校の悲しみを希望に変えて、未来へツナグ～

福井県福井市立殿下小学校PTA

会長 松平成史

1 はじめに

(1) 地域および学区の紹介

福井市は、福井県の北部に位置しており、県内で最も人口が多く、中核市に指定されています。戦国時代の武将柴田勝家の北ノ庄城の時代から城下町として都市形成され、江戸時代には福井藩主結城秀康の居城、福井城下として発展してきました。

殿下地区は、その福井市の中心地から西に20キロメートル離れた山間部、「越前加賀海岸国定公園」の中にあります。武周ヶ池や越知山などの豊かな自然に囲まれた美しい地域です。



【福井市HP「地区概要シート“わがまちトリセツ”29/48殿下地区」より】

(2) 中学校の閉校

現在、殿下小学校は在籍児童1名で、2年後に休校が決定しています。

殿下中学校は、2024年3月に閉校となり、77年の歴史に幕を閉じました。

「続いて、殿下中学校。霊峰越知の麓、山々に囲まれた自然豊かな学校です。全校生徒30名、力強い入場です。」中学校3年生時に参加した昭和63年度福井市中学校連合体育大会のオープニング、入

場行進の際に、このように紹介されたことが今も鮮明に思い出されます。

1992年に一光小中学校が休校となって以降、わが母校殿下中学校は福井市で一番小さな学校として存続してきました。



【校舎風景】

自然豊かな環境を活かし、田植え、野菜の栽培、魚釣り、大味川の生き物観察、芋掘り、稲刈り、果ては自前の巣箱でミツバチの世話をしながら自然の生態系を学ぶ…、たとえ学校は小規模でも、どの学校にもない特色ある教育は、学校だけに留まらず、地区住民が、それこそ子どもは地区の宝だと、まるで我が子のように温かく接し、見守ってきてくれたからに他なりません。

地区から愛され、地区住民から見守られてきた母校が地区からなくなること、まさに断腸の思いです。

地域に支えてもらいながら、先輩から後輩へ脈々と受け継がれてきた唯一無二の、地区と一体となった特色ある学校をここで終わらせてしまってよかったのか、今でも悩む日々です。

2 「殿下校思い出ツナグプロジェクト」の結成

学校校舎跡)

8月 記念誌完成

(1) プロジェクトの目的

殿下中学校が閉校するにあたり、殿下地区では、地区の各種団体、卒業生、PTAとそのOBなどがひとつになって、2023年7月、「殿下校思い出ツナグプロジェクト」を立ち上げました。

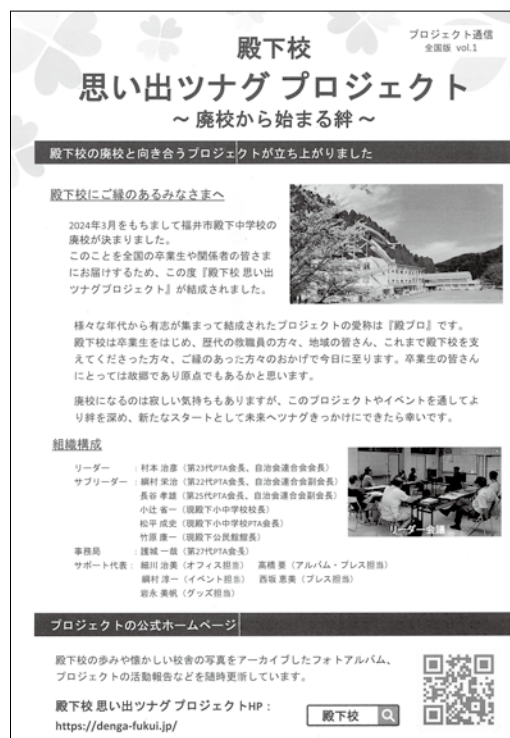
目的は、次のとおりです。

- ①関係者全員に閉校を知ってもらい、ふるさとへの想いを集めたい。
- ②閉校をチャンスととらえ、殿下大家族として集合したい。
- ③元気とアイデアを集めて、新しく再スタートしたい。

(2) プロジェクトの歩み

8月からスタッフを募集し、20～70歳代の約30人が集まりました。「学校はなくなっても、思いは未来へ繋いでいく」を合言葉に、スタッフ一丸となって動き始めました。関わった一人一人が知恵を出し合い、助け合いながら、多彩な企画を実施しました。

2023年 7月	組織立ち上げ
8月	第1回ミーティング チーム活動開始
9月	ホームページ開設 公式SNSアカウント開設
11月	通信vol.1発行
12月	プレイベントを開催 通信vol.2発行
2024年 1月	記念グッズ完成 プロジェクト看板の設置 地区内にポスター掲示
2月	寄付・クラウドファンディング開始 通信vol.3発行
3月	市役所による閉校式典
4月	通信vol.4発行
5月	廃校記念イベント開催
7月	公民館改修工事着工（中



【通信vol.1】

(3) プロジェクトの組織と主な業務内容

地区の各種団体、卒業生、PTAとそのOBなどで組織づくりを行い、プロジェクトを推進しました。

- ①各種団体長は「リーダー」に就任し、月次のリーダー会議で進捗を確認、方針を承認する。
- ②スタッフは業務によって各部会に分かれ、部会長は「キャプテン」として事務局とともにプロジェクトの実行部隊として業務に取り組む。
- ③各部会の主な業務
 - ア イベント部会
イベントの企画・運営、方針を承認
 - イ グッズ部会
メモリアルグッズのデザイン・発注・販売
 - ウ プレス部会
メディアへの告知、ウェブ、SNSの構築
 - エ アルバム部会
記念誌の編集、原稿写真収集

オ オフィス部会
事務局。会計・事務・郵送



【メモリアルグッズの販売】

(4) 中学生とのプロジェクト連携

殿下中学校の生徒とプロジェクト連携のための意見交換会を行い、中学生が考えてくれたたくさんのアイデアについて、説明を聞きながら、質疑応答を重ねました。

殿下にまつわる常設展示室の設置や殿下の名所・校舎を回るスタンプラリー、グッズの制作、マラソン大会などのさまざまなアイデアは、その多くが実現化されました。



【西雲寺本堂にて意見交換会】

3 殿下校絆分校開校式の開催

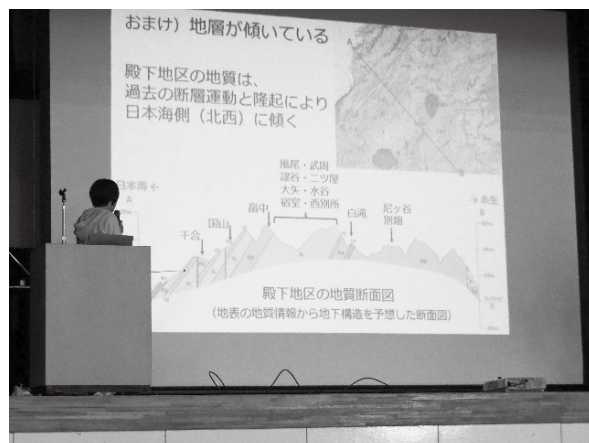
2024年5月4日、「殿下校絆分校開校式」を開催しました。

卒業生や地区住民ら320人が、授業形式の催しなどを通して思い出に浸るとともに、地域の活動拠点となる“絆分校”の新たな門出を祝しました。

参加者は、校庭に出て「デンガ」の人文字をつくってドローンで記念撮影したり、中学校舎の壁にイラストを描いたりして思い出を残しました。

〈時間割〉

- 9:00 登校（受付）
- 10:00 全校朝礼（挨拶、新しい校旗掲揚）
- 10:20 理科（殿下の地学教室）
- 10:40 国語（メッセージ紹介）
- 11:00 体育（ちびっこ運動会、ミニゲーム）
- 12:00 人文字撮影（ドローン撮影）
- 12:30 自由時間（昼食・マルシェ販売）
葉ずし、おにぎり、パン、たこ焼き、いのししラーメン、やきとり、アイス、クレープ、雑貨ショップなど
- 美術（中学校校舎の壁や床に落書き）
- 同窓会
- 14:20 音楽（懐かしい歌を合唱）
- 15:00 帰りの会（校歌、だんごまき、挨拶）
- 15:30 下校



【理科】



【体育】



【葉ずし、呉汁などのコーナー】



【だんごまき】

4 殿下校絆分校夏合宿の開催

殿下地区のよさを「絆分校」を通して未来へツナグため、2024年8月に、1泊2日のサマーキャンプを実施しました。

小学校1～6年生までの14人の子どもたちが参加し、京都産業大学の学生ボランティアのご協力をいただきながら、海水浴や殿下夏まつりなどを楽しみました。

〈保護者の感想〉

殿下のお泊まり会を企画してくださって、ありがとうございました。子どもたちは、すごく楽しかったようで、絵日記にも書いていました。全然お手伝いができなくて申し訳なかったのですが、ゆうすけ君を中心とした学生ボランティアの方々、本当にありがとうございました。

〈学生ボランティアの感想〉

皆様、2日間大変お世話になりました。元気いっぱいの子どもたちといっぱい遊んで喋って、こちらも元気をもらうことができました。ありがとうございました！

ボランティア経験が浅く、至らぬ点が多々あったかと思われませんが、皆様のお力添えのおかげでやり切ることができました。また、何かイベントが開催される時は呼んでいただければ飛んで行きます！

5 まとめ

中学校の閉校が、殿下校開校150年の節目の年と重なったこともあり、記念誌を作成して学校そのものの歩みを後世に残すことができました。地区と学校が協力しながら教育を推進し、当プロジェクトの中でPTAやPTAのOBもその中心的な役割を担いました。地区にとっての学校が、とても重要なポジションであることを再認識させられました。

また、地区に降りかかって来た「閉校」というネガティブな課題をチャンスと転換して捉え、地区全体が一つになって課題解決に取り組むこともできました。当プロジェクトを通して、地区内に世代を超えたつながりが生まれ、地区にゆかりのある子どもたちを対象にした夏合宿など、活動を未来へ繋げる道筋をつけることができたことは、大きな一歩であり、光り輝く希望です。

最後になりましたが、本発表が、皆様のPTA活動のお役に立てれば幸いです。